

- 生徒の主体性を育てたい!
- 集団づくりがうまくなりたい!
- 特別活動の授業のアイデアを広げたい!

そんな先生方に、秀学社の特別活動通信シリーズをお届けします。



東村山市立東村山第五中学校

吉川 滋之

生徒一人一人が、「人と関わり合うことが楽しい」と思える
学級活動を目指して

～中学校での学級会の実践を広げ、深めていきましょう～

【後編】「話し合い活動の工夫から合意形成、事後の指導まで」

1

出し合う 比べ合う まとめる

学級会における話し合い活動の起点として、「出し合う」の実践を行います。発達段階や学級集団の様子により発言が出にくい場合などは、小集団での話し合いも効果的な場合があります。中学生の時期には、一般的に、他者の目が気になったり、自分の意見を主張することにためらいを感じたり、意見の対立や摩擦を避けようとすることがあります。また、

発達の段階として自主独立の欲求が高まることから、生徒の自発的、自治的な活動をできるだけ尊重し、自らの力で組織づくりや活動計画を立て、協力して望ましい集団活動を行うように導くことが大切になります。話し合い活動時の視点(三つの柱)やエチケット(協力とお願い)も事前指導しておくことで、意見をより出しやすく、話題も深められるようになります。なぜこの意見を出したのか、理由をしっかりと伝え合うことも指導していきます。

「出し合う」の後は、「比べ合う」「まとめる」の実践です。意見の共通点や相違点を確かめたり、賛成意見や反対意見などを表明したりします。事前に短冊などで出し合った内容をもとに比べ合うことで、時間も有効活用でき、

司会グループが板書整理を行いやすくなります。そして、できるだけ多くの意見のよさを生かし、よりよい実践に向けた話し合いのまとめを行います。提案理由や話し合いのめあてを踏まえたり、学級全体のことを考えて合意形成を図ったりしていきます。

合意形成のプロセスとしては、「新しい考えをつくる」「優先順位をつけて行う」「意見のよさを合わせる」「条件をつける」「少しずつ全部行う」「共感的に理解する」「譲る」などが挙げられます。

また、「話し合い活動時の視点(三つの柱)」を踏まえて話し合いを進めていくことが大切です。特に、話し合いの視点(柱②)の「どのように取り組むか(工夫点など)」を重点として学級会を進行していきます。

【話し合い活動時の視点(三つの柱)】

- ① いつ・どこで・何をするのか?
- ② どのように取り組むか?
(工夫・約束・ルールなど)
- ③ 役割分担をどうするか?

話し合い活動での協力とお願い

- ① 議題や提案理由に沿った話し合いをしよう
- ② 自分の考えを、自分の言葉で積極的に話そう
(聞こえる声の大きさと、理由もそえて発言しよう)
- ③ 相手の意見や話をよく聞こう
- ④ マイナスよりもプラスの発想で考えよう
- ⑤ 意見が分かれた時は、折り合い点を探そう
(少数派の意見も大切にしよう)
- ⑥ 話し合いで決まったことは、皆で協力しよう

2

対話を通して練り上げられていく合意

将来、集団や社会の形成者となる生徒一人一人にとって、対話を重ね、よりよい社会を目指していく上でも、「合意形成」の力を身につけていくことは大きな意義があります。少数意見が切り捨てられないようにするために話し合い活動をしているというのを、生徒と共有しながら指導をしていきます。安易な多数決によらず、それぞれの意見の理由や、お互いの思いをもとに、「みんなが納得でき、みんながちょっとずついい」という気持ちを育むことが学級活動での大きなねらいです。

「合意形成」のための基本的な方法を、教師も生徒と一緒に学んでいくことが大切です。その中で、生徒の活動を支えながら、一人一人に居場所のある学級を目指していきます。実践を重ねる中で、多様な意見を受け入れる大切さに気づく生徒が次第に増えてきます。対話を通して練り上げられていく合意。誰ひとり取り残さない学級集団を目指していくことが教育活動の根幹にある大切なものであることを、これまでの教師生活を通して実感しています。だから、そのための話し合い、学級活動であり、その一連の流れを生徒も教師も一緒に大切にすることが重要です。

学級会後の取組についても、話し合いで終わってしまうことがないように、決まったことの実践と一連の活動の振り返りが重要です。役割分担を明確に行い、実践のための準備を生徒も教師も一緒に楽しみながら取り組んでいくことがよりよい学級経営にもつながります。また、学級会の取組を振り返り、自己評価や相互評価の機会を設け、それを次の活動へつなげていくことも重要です。

また、司会グループなどの代表生徒に対しては、計画から話し合いまでの取組に対する頑張りを認め、賞賛します。学級全体に対しても、提案理由を大切に話し合ったことを認め、実践への意欲を高めるようにします。学級会での教師による講評は、生徒の自尊感情や自己有用感を高める上でも大きな意味をもちます。ぜひ、学級会の事前準備と話し合いの工夫、実践の積み重ねを大切にしてみてください。



この字型による学級会隊形で合意形成



事後の活動実践へつなげる



あとがき

学級活動（１）は、事前指導は教師が意図的に行うものですが、学級会当日は、生徒の話し合い活動を教師が見守り、生徒同士が自分たちでよりよい合意形成を図ることができるように支援することが基本となります。生徒の発言から、話し合い全体の流れを捉えたり、一人一人の生徒の考えを注意深く聞き取ることで、話し合いの状況を適切に把握し、話し合い活動が停滞したときに機会を捉えて指導・助言を行います。一連の取組を通して、生徒一人一人が、「人と関わり合うことが楽しい」と思える活動を目指していくことを大切に学級指導を行なっています。また、これからの教師に求められる力として、「教える」→「つなぐ」力がより大切になっていると感じています。

